

第25代専如門主 伝灯奉告法要記念 まことの保育 第31回全国保育大会 開催報告



記念式典（於：阿弥陀堂）

第31回全国保育大会実行委員会

7月29日（土）から30日（日）にかけて、「第25代専如門主伝灯奉告法要記念 まことの保育 第31回全国保育大会」を本願寺阿弥陀堂（記念式典）・ホテルグランヴィア京都（大会・交流会）を会場に開催いたしました。大会の運営は、保育連盟理事会・監事（実行委員会）、研修委員会（実働体制部会）、京都教区保育連盟加盟園（スタッフ）で組織し、企画から当日の運営までを行ってまいりました。

本大会は、本年5月31日まで10期80日間にわたり執り行われた「第25代専如門主伝灯奉告法要」のスローガン「うけつぐ伝灯 伝えるよろこび」を大会スローガンとし、「まことの保育」の理念である「親鸞聖人の生き方に学び、生かされているのちに目覚め、ともに育ち合う」を大会テーマとしました。

専如ご門主より伝灯奉告法要初日（昨年10月1日）にお示しいただいた、「ご親教 念仏者の生き方」のお心を頂戴する中で、参加

者一同がこの機会に原点に立ち返り、「まこと
の保育の理念」を本大会の基調として、念
仏者の生き方に示された道を歩みながら、自
他ともに心豊かに生きていくことのできる社
会の実現に努めていくことへの「新たな一歩」
となる大会でありました。

【1日目】 書院拝観

全国各地より、遙々本願寺へお越しいた
くということ、受付から記念式典が始まる
までの時間を利用し、国宝書院・唐門のご案
内をさせていただきました。より本願寺を知
っていただくために、境内案内図に専用のペ
ンでタッチすると、解説を聴く事ができる「タ
ッチペン」を準備のもと、3回に分けて設定
した書院拝観も、急遽4回にするなど、初め
て本願寺にお参りいただいた方にも、とても
喜んでいただきました。



参加者代表による献灯・献華

記念式典

本大会の参加者は、当初の募集人数
1000名を超える1014名の参加をいた
だきました。記念式典では、保育連盟総裁様
ご臨席のもと、阿弥陀堂で執り行われ、多数

ご参加をいただいた今回は、全員が堂内に座
りきれないため、縁側に椅子席を設けての開
催となりました。

式典では、参加者代表による献灯・献華、
また、保育連盟のおつとめであります「幼児
のおつとめ」を参加者全員でお勤めいたしま
した。

式典中、流豆美お裏方様に花束を贈呈させ
ていただく一幕もありました。続いて、大会
実行委員会宮川恵秀委員長より開催に向け挨
拶がありました。

永年勤続表彰では、190名の表彰対象者
の方の出席があり、園長・設置者30年以上、
職員30年以上、職員20年以上、職員10年以上
それぞれの代表者に表彰状と記念品が手渡さ
れ、永きにわたり「まことの保育」を推進し
てくださった先生方へのご功績を参加者全員
でお祝いしました。



総裁様より永年勤続表彰の授与



お言葉を述べられる大谷流豆美総裁(お裏方)様

園児による演劇映像・
ご門主のこれまでの歩み映像鑑賞
本願寺での記念式典が終わり、ホテルグ
ンヴィア京都へは、徒歩やタクシー、または、
大会用に準備したシャトルバスを利用いた
くなど、猛暑の中それぞれ移動いただきまし
た。
ホテルグンヴィア京都では、初めに本願
寺中央幼稚園の園児による演劇映像『オペ
ッタ しんらんさま「ごおん」』を鑑賞し、
親鸞聖人が、関東であった山伏の弁円との



大会実行委員会 宮川恵秀委員長の挨拶

エピソードを通して、お念仏の大切さを味わ
いました。
引き続き、伝灯奉告法要でも毎座放映さ
れた、「ご門主さまのこれまでの歩み」の映
像を鑑賞し、本大会が伝灯奉告法要の記念大
会である意義を確認のもと、大会実行委員会
高輪真澄副委員長より大会趣旨の説明を行
いました。
また、この間に伝灯奉告法要期間中、全国
の加盟園より、大谷宗家へ贈呈された花束を、
会場外のロビーに飾らせていただきました。
記念講演
記念講演は、佐賀県武雄市の陶彩画家で絵
本作家の草場一壽先生より、「いのちのまつ
り」と題し、園児に絵画指導を行ってきた10
年間の経験をもとに、ベストセラーになった
絵本「いのちのまつり」を通して、「いのち」
についてご講演をいただきました。



記念講演 草場一壽先生

草場先生は、小学校などでもよくお話をされるようで、こんな話をされました。「君たちの体は誰のものですか」という問いに、多くの子ども達は「自分のもの」と答えます。「自分のものだったら、ちょっと心臓を止めてみて」というと、「えー、できないよ」と。続けて草場先生は、「いのちもそうだね、自分の力だけではどうにもできないね。私たちのいのちは、数十億年の昔から私に至るまで、数えることができないほどの多くのいのちが繋がって、私に届いているのです。この数えることのできないいのちの一つでも欠け

ていたら、私のいのちは存在しないのです」と話をされました。

私たちは日々の保育の中で、子どもたちに「いのちの大切さ」「いのちの尊さ」を伝えていますが、その伝えている私自身が忘れていた「いのちの繋がり」を草場先生は話していただきました。

さらに、幼児期の教育・保育についても、草場先生は「就学前までの教育・保育に人間としての育みは集約される」と言われ、私たちが担当しているこの時期が、いかに大切であるか。また、この時期にいかに質の高い教育・保育を受けることが子どもの利益になるかを改めて気づかせていただきました。

交流会

大谷光淳ご門主様をはじめ多くのご来賓の方々にもご臨席を賜り、今大会全参加者の皆様とご一緒に交流会が催されました。



大谷光淳ご門主様へ花束の贈呈



大会・交流会（於：ホテルグランヴィア京都）

はじめに、ご門主様よりお言葉を頂戴し、10期80日間にわたる伝灯奉告法要の円成に際し、お祝いの花束を贈呈させていただきました。続いて保育連盟副会長の山階昭雄総務よりの挨拶の後、上七軒の芸舞妓さんによる祝舞。続いて、大会実行委員会岩田公子委員より乾杯の発声があり、交流会を開始しました。交流会半ば、世界各国において数々の賞を受賞し活躍されている、姉妹タップデュオ



「華～puspa～(ぶしゅば)」によるタップダンス

「華～puspa～(ぶしゅば)」のお二方によるタップダンスを披露いただきました。

また、今大会の実行委員であります保育連盟理事・監事の先生方、2日目にご出演いただく「チームいちばん星」や旅行会社の皆様よりご提供いただいたご当地の名産など、思いが込められた景品をめぐって抽選会が行われました。抽選会では、ご門主様にもプレゼントとしてご参加いただき、大いに盛りあげられました。

保育連盟の長い歴史のつながりの中で久しぶりの出合いがあるなど、まだまだ話の尽きない交流会でしたが、最後に大会実行委員会日野昭文副委員長の挨拶で交流会を閉じました。

【2日目】

シンポジウム

2日目は、讃仏偈のおつとめ、大会実行委



シンポジウム 積 徹宗先生(左)・草場一壽先生(右)

員会亀原了円委員の法話で始まり、引き続きシンポジウムを行いました。

大会テーマ「親鸞聖人の生き方に学び、生かされているのちに目覚め、ともに育ち合う」はシンポジウムのテーマでもありました。

シンポジウムは記念講演講師の草場一壽先生と相愛大学教授積徹宗先生にお願いし、保育連盟教育原理委員会委員の鷲尾純一先生にコ

ーディネーターを務めていただき、「いのち」について「まことの保育」の現場でどのように考えたらよいのかご提言いただきました。

はじめに釈先生に「親鸞聖人の生き方に学び」という部分について解説をお願いしました。先生は聖人がご家族を持たれたことに触れられ、家族を持つことは喜びと同時に悩みをかかえることでもあり、晩年になってご子息と縁を切らなければならない切なさにもであわれたと紹介されました。私たちは普段漠然と、聖人は偉い人で私たちとはあまりに距離がありすぎて、その生き方に学ぶということは大変畏れおおいことと思いますが、たちまち身近な存在に感じられるお話でした。

草場先生は、記念講演において語られた「皆さんの心臓は誰が動かしていますか？自分が動かしていると思う人は、それを止めてみてください」との投げかけにより、多くのおか

げさまによって私たちが生かされていることに気づかせてくださいました。

また、近年注目され研究が進むAI（人工知能）に代われない職業として、保育、芸術、宗教をあげ、「まことの保育」が果たす役割の大きさを指摘されました。

最後に両先生が共に強調されたことは、仏教の根本思想である縁起についてでした。つながり合って生きているということは、「いのちの多様性」であり「無条件のいのちの尊重」であるとまとめていただきました。

朗読劇

全国保育大会では3回目の出演となる「朗読塾・チームいちばん星」の皆さんです。朗読と映像・歌、そして法話と、毎回感動させていただいております。今回は『しあわせの種はここにある』のテーマで詩の朗読、「佐賀のがばいばあちゃん」をご公演いただきました。

した。

ナビゲーターの兄妹の楽しい会話の中から、幸せとは何だろうと問いかけがあり、朗読を通して参加者一同、幸せとは何かを考えさせられました。

第1部の「詩の朗読」では、心に染み込む



朗読劇 「朗読塾チームいちばん星」

ような感性豊かな子どもの詩が披露され、いろいろな思いを抱かせていただくひと時でした。第2部の「がばいばあちゃん」のお話からは、物の見方・とらえ方が変われば幸せに感じられることを伝えてもらいました。参加者一人ひとりが「幸せとはなんだろう?」と考えるきっかけになったことと思います。

きれいな歌声に耳を傾け涙する参加者もいらっしやいました。胸がいつぱいの中終演となり、感動の拍手が鳴り響いていました。

閉会式 まとめ

朗読劇に引き続き、閉会式が行われました。大会実行委員会宮川恵秀委員長の挨拶の後、次期開催の備後教区に代わり第5ブロック（中四国）を代表して篠原典祐理事より挨拶があり、閉会いたしました。

今回の大会は伝灯奉告法要をお祝いし、私たちもここから新たな出発をしていこうとい

う意味で大会テーマにあえて「まことの保育の理念」を掲げ、それにそって記念講演、シンポジウムを進めていきました。この大会を通じて参加者の皆様に「まことの保育」とは

なにか。「生かされて生きるいのち」とは、そして「ともに育ち合う」ことの大切さが伝わり、「まことの保育」の新たな出発ができたことと思います。

伝灯奉告法要にて大谷宗家へ贈呈 された加盟園作成の花束

